大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

大阪の女性労働：現状と課題(2006年度男女共同参画事業報告)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊田, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004917

大阪の女性労働 ― 現状と課題

12月16日　ドーンセンターにて

女性学研究センターは2002年の大阪府男女共同参画条例に基づくプランにおいて、府の男女共同参画政策の教育研究における推進を担う位置づけとなっており、府やドーンセンターと連携を深めながら今日的課題に取り組んでいる。

今年度はドーンセンターとの共催事業として、「大阪の女性労働 ― 現状と課題」と題して、女性の労働の問題をテーマに研究者、大阪を中心にさまざまな場において運動、活動に携わる方々に多くの視点や実践をうかがい、現状と課題をめぐる認識を基盤として共有し、連携、ネットワークを深める場としたいという趣旨から、リレートークを企画した。

当初はワークショップなどの方法を考えていたが、参加者が報告のすべてをともに聞き、話し合うことをめざして、このハードなスケジュールに行き着いた次第である。長時間にわたる催しであったが、会場をいっぱいにする多数の参加者が全日集中して参加してくださり、たいへん感銘を受けるとともに、こうした取り組みの必要性をあらためて確認できた。

１日で多くの方にご発言いただくため、発言の時間におひとり20分という制約があったが、今回は一堂に会することの意義を優先したいと考えた。多くの発言者のみなさまに快く参加していただき、資料やヴィデオ、DVD、パワーポイント等を利用して短い時間にもかかわらず充実した発言をいただくことができた。

ドーンセンター館長の竹中恵美子先生からは女性労働の先進的研究者としてすばらしい基調講演をいただき、また大阪府生活文化部男女共同参画課の松田課長に府の男女共同参画施策をご説明いただくことができた。

労働問題は古いテーマでありながら、今日なお地球上のいかに男女平等がすすんだ国でも解決には至っていない問題であるが、とりわけ日本においては先進国の中でもたいへん格差の大きな厳しい状況が続いている。男

女共同参画基本法が施行されて7年目、大阪府条例も5年目を迎えた今日、働く女性は増加しているが、他の先進諸国に比べてきわめて大きい男性との賃金格差をはじめとして、労働をめぐって女性は今も厳しい状況におかれている。一方パート、派遣など非正規雇用の拡大、起業、NPO活動の活発化など、女性の働き方は多様な展開を見せている。フルタイム雇用や自営業での働き方もいっそう負担の大きな方向に変化している。こうした変化の中で家庭や地域でのアンペイドワークは相変わらず女性によって担われている。多くの国々で解消しつつある年齢階層別就労曲線のM字の落ち込みは日本ではなかなか改善されておらず、出産育児期に意に反して仕事を辞めざるを得ない女性が多い状況を示している。男女共同参画社会はアンペイドワークを含めた労働の平等を抜きにしては実現しえない。

この企画はいくつかの準備企画を経て実現した。ひとつは大阪で女性労働の現場で活動する有志の方々とともに、今まで大阪で行われた女性労働に関する調査報告の検討を行う研究会であり、その成果は伊田の発言で発表させていただき、有志の方々の中から発言もしていただくことができた。また今期は大阪の女性労働を考える上で、たいへん重要な部落女性、在日朝鮮韓国女性の労働問題への取り組みについて、当事者から発言していただくことができた。今まで労働の観点からの交流が不十分であったという認識から、センターではこれに先立ち小規模研究会を開催して、事前の理解を深めてきた。これをきっかけにあらためて今後の連携を是非深めて行きたいと考える。

また本日の集会には山下英愛さんの韓国高速鉄道女性乗務員問題についての経緯の説明とメッセージ、および当事者ソン・ジヘさんのメッセージが寄せられた。日本の女性労働のありかたが国際的にも影響を与えていることを知り、日本の女性労働の改善は自分たちだけの問題ではないことをあらためて認識することができたと思う。

当日の発言とテーマは以下のとおりである。過密なスケジュールは働きすぎなくてもいい社会をめざす立場と矛盾するものであり、主催者も参加者も明らかに「働き過ぎ」であったが、今後のセンターの活動の新しい展開に向けての実り多い取り組みとすることが出来たと思う。共催いただい

たドーンセンターを始め、ご協力くださったすべての皆様に感謝したい。

（伊田記）

基調講演

「女性労働の今日的課題を考える」

竹中恵美子（ドーンセンター館長）

報　告

「条例及びプランに基づく大阪府の取組について」

松田隆雄（大阪府生活文化部男女共同参画課長）

リレートーク

「さまざまな調査から見た大阪の女性労働」

伊田久美子（大阪府立大学女性学研究センター主任）

「近年の女性雇用労働の動向—非正規化を中心に」

三山雅子（同志社大学社会学部助教授）

「労基法改悪阻止と均等法制定前後の大阪の運動」

伍賀偕子（元大阪総評オルグ／関西女の労働問題研究会代表）

「住友裁判とCEDAWと均等法」

正路怜子（WWNワーキング・ウィメンズ・ネットワーク会長）

「均等待遇要求と非正規労働運動」

赤羽佳世子（働く女性の人権センターいこ☆る運営委員）

「NPOにおける女性労働の課題」

田上時子（NPO法人　女性と子どものエンパワメント関西理事長）

「母子家庭の現状と女性労働」

中野冬美（NPO法人　しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西理事）

「部落女性の労働問題」

塩谷幸子（部落解放同盟大阪府連合会副委員長・女性部長）

「在日女性の労働問題 — 在日朝鮮人女性実態調査から浮かび上がる複合差別の実態」

梁優子（アプロ女性実態調査プロジェクトメンバー）